

3.16「AWC 首都圏」文書のハラスメント否定と、障害者差別発言への抗議

AWC 総会にて「AWC 首都圏」と称した、文責の記名もない文書（以下「無記名文書」）が提出された。

この文書は「9 名が出席した会議で 7 名が賛同した」と、総会出席者の T M から付言があったとのことだが、そのうち 2 名は加害者の N B と M N という、完全に「団体で地位のある加害男性らを擁護し、ハラスメント事案そのものを否定する」目的で書かれた【難癖文書】でしかない。

しかもこの会議の中で、出席者の N S から、A には精神障害があり、まともに話せないという理由で、私への説明や対話を拒否するという【障害者差別発言】までされていたことが、総会で明らかにされている。

の差別発言は、文書の内容に不賛同の参加者から強く抗議されたが、他の 7 名の参加者は N S の差別発言に完全に迎合し、差別発言にも文書の内容にも【賛同】したとのこと。

あまりにも酷い、【AWC 首都圏内の加害者擁護メンバー】（以下「一部メンバー」）によるハラスメント否定（握り潰し）と、障害者差別発言に、強く抗議する。

◆ハラスメント否定を目的とした問題のすり替え

文書の内容は、メール文の引用で一度だけ「ハラスメント」という言葉を使った以外は、全く「ハラスメント」という言葉を使っておらず、一部メンバーの認識は「怒鳴りあい」＝喧嘩両成敗というもの。

しかも私が【AWC 首都圏メンバーでもある O が別の大衆運動の集会で発した「部落消し」発言に対し意見を伝えたところ、謝罪と「共有する」と返答があった件】で「報告依頼文」を提出したことが「発端」という書き方をしている。

N B の恫喝行為の【背景】に「報告依頼文」への対応がある事は事実だが、12 月の同主催の国会前行動では、同じ問題で現場での恫喝行為ではなく、対応がされている。

また、集会中に他の参加者が打ち合わせや私語をする事は普通のこと、N B も過去に何度も行っている。

そもそも、どんな背景があろうと、集会の現場で他の参加者を怒鳴りつける（しかも主催者側の男性が一参加者の女性に怒鳴り散らすというパワーの不均衡と性差別）ハラスメント行為が許されるはずがない。

無記名文書の主張は全く正当性がなく、被害者側に【落ち度】があるかのような印象操作を目的とした二次加害文書である。

◆加害者 2 名のハラスメントの事実と責任の否定・隠蔽

この無記名文書では、N B に対しては「猛省を促し」ながら、被害者への謝罪は一切なく M N については「『集会中』である旨発していたのであり加害当事者ではありません」と断定している。

あたかもハラスメント行為を反省しているかのように読める「猛省」は、実は国会前行動の主催団体

に対してのみ向けられており、現在に至るまで、N B からも「AWC 首都圏」からも

私に対する【謝罪】は一切ない。

また M N の加害に関しては記載に「虚偽」がある。M N は「集会中」という発言はしていない。私に対してだけ「集会破壊するな！」「集会破壊してるだろうが！」と 2 度怒鳴ったのである。

本来であれば、M N は同じ団体の人間なのだから、N B が怒鳴り始めた時にすぐに止めるのが当然であり責任である。しかも AWC 首都圏は国会前行動の主催者側でもある。

N B の隣に立っていながら、N B が罵声を上げ、その場に居座って恫喝を続ける（「俺はここを動かない！言

いたいことがあればここで言え！」と怒鳴り続けた)のを全く止めることもなく放置・傍観し、司会が介入し始めてから、私にだけ「集会破壊するな！」と怒鳴る行為の、どこを見て「加害当事者ではない」と断定できたのか？

「仲間へのひいき目」「身内をかばいたいという結論ありき」以外に何もない。

「事実確認会」への出席すら拒否する加害者2名の側に完全に立ち、被害者の主張を実際にヒアリングすることもなく一方的に「ウソ」と断じているも同然の、典型的な【組織的なハラスメント隠蔽行為】である。

◆ハラスメントも大衆運動も全く理解しない「大衆運動への介入」論

わざわざ大見出しにしてまで「AWC 全国事務局が乗り出してくる問題なのか？」と書かれているが、AWC 首都圏にとって、自らの団体の「代表」を務めている人物が／主催する集会の現場で／衆人環視の中で公然と起こした「ハラスメント(恫喝)行為」というのは、それほど軽いものなのか？

しかもNB・MNは、両名共にAWC日本連の事務局員である。全国事務局が関わらない方が不自然である。

これほど【加害者擁護】を鮮明にしている団体が、他の団体の協力や関与を拒否する目的は【団体の不祥事をもみ消す】こと以外にはないし、現実にはこのような「怪文書」が提出される事態になっている。

中居正広の性暴力をフジテレビが「わが社の問題だからわが社で対応する」と主張するのと同じだと理解できないなら、団体そのもののハラスメント体質を疑った方がいい。

「大衆運動への介入」というのは、MNが行っているような、加害者が別組織で人事に口を出すような事案のことを言う。恥を知るべきである。

◆会議の場で行われたNSの障害者差別発言と、それを追認した出席者全員の差別行為

この無記名文書を検討・確認する過程で、出席者のNSから、私が精神障害者だからまともな話ができないので対応しないとする、精神障害者差別発言があったと、複数の出席者から確認している。

病気や障害を理由に、その者の自己決定権を否定しレッテル貼りをする行為は、明らかな障害者差別であり、徹底糾弾する。

NSは「今は話さないという事で、未来永劫話さないという事ではない」と言い訳をしたらしいが、言い訳にも何にもなっていない。

「症状がある精神障害者とは話をしない」という主張は、精神障害そのものを認めない、精神障害や病気はあってはならないもの、治療し健常者に近づけるべきものという【健常者中心主義】に他ならない。

一部メンバーらは、精神障害者を一人の人間、解放運動の主体と認めない、健常者の「温情」による【支配の対象】としか見ていないのである。

話をするかどうかは私が決める事であり、そもそも私は一貫して「口頭での個別説明」ではなく、「文書での報告」を求めている。

NBとやり取りをしてきたのは、あくまで【NB側の都合】でしかなく、それさえNBから連絡が来たことは一度もなかった。

ましてNSとはここ数ヶ月、会話どころか顔も合わせていないのに、何をもって『ドクターの診断』まがいの発言をしているのか。

この障害者差別発言の影響で、総会以降、心身に不調をきたし8日にメンタルクリニックを受診、差別発言について相談したが、ドクターは「医療者もそんな事は言わない」と明言していた。

NSの発言は単なる【精神障害者への偏見を利用した、AWC 首都圏のハラスメントからの逃亡】でしかない。

しかもその会議の場には、障害者のなかまもおり強く抗議しているが、一部メンバーらはその抗議を無視しただけでなく、障害者のなかまの家族まで同様にレッテル貼りし、差別発言に同調するように求めたと聞く。

もはや「AWC」の名を名乗っていいとは思えない、差別者集団である。
障害者差別発言を行ったNS、それを追認した出席者全員に謝罪を求める。

◆被害者を団体の SNS で無断利用し、削除の約束も履行しない厚顔無恥な行動

一部メンバーは、総会の場で「怪文書」を配布し、陰に陽に被害者への『迷惑分子』という印象操作を行い、責任転化しつつ、異様な難癖でハラスメント問題を「AWC 首都圏」内部だけで握りつぶそうと画策しながら、SNS の公式アカウントでは平気で被害者の写真を無断使用し、自分らの活動の宣伝に利用している。

AWC 首都圏の Twitter(X) 現公式アカウント awcmetro(@Cnbfsxkbo6ToDjz) にも抗議と削除要請のコメントをし、恫喝ハラスメントを受けた日にも NB に直接、写真を削除するよう強く抗議、NB 自身が「分かりました」と返答したにもかかわらず、いまだに投稿は放置され続けている。

大衆運動をあれこれ言う前に、自分らの悪質な【利用主義】を何とかしたらどうか？

しかもこのアカウントは、たった 85 のフォローの中に、反移民、トランスヘイター、共同親権推進(DV 加害擁護)という、明らかに問題のあるアカウントを含んでいる。

SNS では『どの様な人・団体をフォローしているか』はそのアカウントの傾向を判断する重要な指針となる。

公式アカウントでこの様なアカウントをフォローする団体がいくら「反差別」「人権」を騙ろうと、信用されるはずがない。こんな団体に自分の写真を使われたくない。即刻削除するよう要求する。

以上、強く抗議する。

2025 年 4 月 17 日

A

AWC 日本連 各位

先日の総会を受けて、AWC 首都圏に対し、総会で配布された「文書」と、その文書を検討・決定する会議の場でなされた障害者差別発言に対する抗議文を提出しました。

ご一読いただき、AWC 日本連には、この差別発言についての全国への周知徹底と、AWC 首都圏のハラスメント行為、差別発言への厳正な対処を求めたいです。

よろしくお願いいたします。

2025 年 4 月 17 日 A